



## 昭和42年卒同期会（四二会）

四二会の歴史はかれこれ40年以上昔にさかのぼる。初めは有志の集まりだったが、やがて事務局を作つて組織化し、毎年定期的に同期会を開催するようになった。コロナ禍での中断はあったものの、母校に寄せる仲間たちの熱い思いは今も変わらずハイテンションのままだ。

今年は9月6日、協働大町ビルに52人の同士が集まり旧交を温めた。懇親会に先立ち物故者に黙とうを捧げ、校歌を斎唱した。また事務局からは教育振興基金への寄付など四二会活動に関する報告があった。

北川登君の発声で乾杯、会場は一気に懇親会モードに。今回は県外から7人が参加したほか、いまだ現役で活躍する同士が約4割もいて話題は尽きることがなかった。笑顔あふれる中で最後は校友会歌を大合唱、来年の再会を約して散会した。  
(石井 仁 記)



## 昭和50年卒同期会

6月28日（土）秋田キャッスルホテルにおいて「秋田高校昭和50年卒古希記念同期会」が開催されました。

当日は71名の同期生が集い、記念撮影、三吉神社によるお祓いに続き、佐藤尚子氏（3B）の司会で、幹事代表川村満氏（3J）が挨拶、辻良之氏（3A）が乾杯、須藤智明氏（3C）・佐々木晃久氏（3D）のエールで校歌を斎唱、中村順子氏（3B）が中締めと順調に進行しました。

途中アトラクションとしてクラス代表スピーチと今回の目玉アナログ企画であるあみだくじ大抽選会ではたくさんの賞品が当たり大いに盛り上りました。

二次会でも佐々木章氏（3B）の司会進行で塙田善也氏（3J）が挨拶乾杯した後は久しぶりの再会で話題は尽きず、スウェーデンから来日された所澤朗子氏（3E）の締めでようやくお開きとなりました。

今回の開催は今後の幹事会決定を待つことになりましたが、まだまだ余韻を楽しみたい面々は秋田の夜の街へと消えて行きました。  
(佐々木 章 記)



## 昭和30年卒同期会

9月28日、日本を変える自民党総裁選挙のさなかに、昭和30年卒の同期会（第2回茶話会）が秋田駅前のメトロポリタンホテルで行われた。昨年を上回る同期生が東京や仙台からも集まり、旧懐を温め、老いの生き方を語り合った。代表挨拶で橋本顯信氏は西行の生き方を語り、乾杯の挨拶では新田目倅三氏が母校に残る名言や校歌の歌詞を引用して人間の生き方を語った。続いて、応援団長畠江暢雄氏のリードのもと、校歌と校友会歌を大合唱し、「高校3年生」を伊藤賢隆・高橋昭一両氏の指揮下で熱唱、89歳の心はいつしか青春に返っていた。

秋風や 散りゆく桜の 同期会 人生いろいろ 老いもいろいろ  
～詠み人知らず～  
(松岡 正樹 記)



## 昭和49年卒同期会

49年卒同期会は、コロナ禍の時期を除いて隔年で開催してきたが、昨年の「古希を祝う会＆卒業50周年記念同期会」を機に、今後は毎年開催することとした。今年は8月9日協働大町ビルを会場に45名が参加した。

小泉ひろみさんの乾杯の発声で開宴。今回も恩師の三船新次先生にご出席いただき、当時の思い出話や激励のお言葉をいただいた。

久しぶりの参加者からは、まだ現役で元気に働いていることや、退職後新たな趣味や体力維持に取り組んでいるなどの紹介があった。

紫色の学生服姿で登場した莊司裕さんのリードで声高らかに校歌斎唱。マスターズ甲子園参加で遅れて到着した小野巧さんの中締めの後、同ビル1階の『魚河岸』での二次会には、29名参加。一次会は3年次、二次会は2年次のクラス単位でテーブルを囲み、さらに旧交を温めた。会話が弾み別れがたい気持ちを抑えつつ、健康でまた会おうと次回の再会を固く誓い、笑顔で散会した。(佐藤 悅紹 記)

